

年に一度の“邦楽・和楽器フェス”第2弾!

邦楽界に新風を巻き起こしたアーティスト達が一堂に会するこの公演。
一期一会の真剣勝負、まさに“草加の陣”と呼ぶにふさわしい。
司会も加わり、より深い邦楽の世界にご案内する。

◆高橋竹山 (津軽三味線) Chikuzan Takahashi (Tsugaru-jamisen)

10歳より三味線に触れ、17歳の時に初代高橋竹山のレコードを偶然聴き衝撃を受け、18歳で内弟子入り、6年間の内弟子生活を経て独立。初代が亡くなるまでの25年間、初代と舞台を共にした。1997年二代目高橋竹山襲名(渋谷ジャン・ジャンで公演)、そして本年2017年には襲名20周年を迎えた。さまざまなジャンルの音楽家、舞踊、新劇の人々と共演し三味線と唄の新しい世界を追求中。 <http://www.chikuzan.jp/>

◆藤堂輝明 (民謡) Teruaki Todo (Japanese folk song)

福岡県久留米市出身。浪曲の曲師であった父の影響で、10歳で浪曲の初舞台。18歳で上京後、渡辺輝明師に民謡を師事し、昭和37年キングレコードよりデビュー。コロムビアレコード専属。男性民謡歌手の四天王と呼ばれ、舞台を中心とし、TV、ラジオと第一線で活躍中。その歌声は、聴く人の心を大きく揺らす程の美声で、多種多様な歌をこなす。特にその中でも得意な曲は、「黒田節(詩吟・浪曲入り)」「刈干切歌」「相撲甚句」「関の鯛釣り唄」「筑後の酒造り唄」「日向木挽唄」他多数。出身地でもある九州地方の民謡を中心に幅広いレパートリーを持つ。平成3年、尺八演奏家、中村明一氏と初セッション。ジャズワールドミュージック風にアレンジした新感覚の民謡に挑戦。好評を博す。以降定期的にジャンルの異なる音楽家との競演を意欲的に継続。外国人ミュージシャンとの共演も多い。国際交流基金主催、海外公演(パキスタン、タイ、マレーシアなど)、アメリカ200年祭民謡ハワイツアー、香港総領事館招待民謡公演など海外公演も多数。

根本美希(歌) / 中村明一(尺八) / 澤田勝成(津軽三味線) / 下町兄弟(打楽器) / ニテテ(打楽器)

◆野坂操壽×沢井一恵「変絃自在」 Hengenjizai (Koto) Souju Nosaka & Kazue Sawai

野坂操壽(箏奏者)

初代野坂操壽から手ほどきを受け、9才で加藤柔子師に古典箏曲・地歌三絃を師事。東京芸術大学音楽学部卒業、同専攻科修了。1965年:第1回リサイタル、日本音楽集団員(1982年迄)。1969年:第2回リサイタルで二十絃箏を開発・発表。芸術祭奨励賞。1986年:小劇場渋谷ジャン・ジャンを拠点に、自作曲のライブツアーを3年間継続。1991年:二十五絃箏を発表。2000年:伊福部昭作曲「琵琶行」初演に対し、ミュージックペンクラブ賞最優秀コンサートパフォーマンス賞。2002年:芸術選奨文部科学大臣賞。2003年:紫綬褒章、二代野坂操壽襲名。2011年:野坂操壽×沢井一恵ツアー開始。2015年:文化功労者。古典の継承、現代曲の研鑽並びに二十五絃箏の為の委嘱初演を続けている。現在、公益社団法人日本三曲協会常任理事。桐朋学園芸術短期大学特別招聘教授。生田流箏曲松の実會主宰。

沢井一恵(箏奏者)

東京芸術大学音楽学部卒業。1979年沢井忠夫と共に沢井箏曲院を設立。ニューヨーク BANG ON ACAN、メルズ・ジャズ、パリ市立劇場などアメリカ、ヨーロッパ各地のフェスティバルより招聘を受ける。ロシア人作曲家ソフィア・グバイドゥーリナとの即興、CD制作及び作品演奏は、1999年発表の箏コンチェルト(NHK交響楽団委嘱)へと発展、シャルル・デュトワ指揮でアメリカツアー(カーネギーホールなど)を行う。2003年よりヴァイオリニスト五嶋みどり主宰NPOミュージックシェアリング学校訪問プログラムに参加。2008年「五嶋みどり・沢井一恵スペシャルプロジェクト」年末年始6日間コンサート。2010年兵庫県芸術文化センター、東京オペラシティ主催、佐渡裕指揮、坂本龍一作曲「箏協奏曲」を世界初演。同内容のCD制作。2011年野坂操壽×沢井一恵ツアー開始。2015年東燃ゼネラル音楽賞受賞。

◆ヒダノ修一(太鼓ドラマー) Shuichi Hidano (TAIKO Drummer)

1989年にデビュー、10年後の空前の和楽器ブーム到来の礎を築いた1人。世界40ヶ国で太鼓史に輝く偉業を数多く成し遂げる。2016年11月、パラリンピック東京大会2020の開催に向けた「パラフェス2016」に出演。日本政府の要請で『第6回 アフリカ開発会議(TICAD VI) 2016 in ケニア』安倍内閣総理大臣主催晩餐会で演奏した。国民的アイドル嵐の全国5大ドームツアー、全国アリーナツアーに参加。2013年から女性アイドルももいろクローバーZをサポート。2014年4月、世界的JAZZピアニスト《Herbie Hancock All Star Band》に参加し、Wayne Shorter(sax)、Marcus Miller(B)ら超一流アーティスト達と共演。2013年【世界一の太鼓演奏技術を持つ人】に選出。2010年、Stevie Wonderのアジアツアーに参加。【FIFAサッカーWorld Cup】では、歴史上初のFIFA公式閉会式に3大会出演した。シルク・ドゥ・ソレイユの契約アーティスト。平成18年度より、全国の中学校の音楽教科書の編集を担当。神奈川文化賞、横浜文化賞を受賞。

《EnTRANS/エントランス》ヒダノ修一(太鼓、ボーカル) / ミッキー吉野(キーボード、ボーカル/from ゴダイゴ) / 鳴瀬喜博(ベース、ボーカル/from カシオペア) / 八木のぶお(ハーモニカ、ボーカル)

◆藤原道山(尺八) Dozan Fujiwara (Shakuhachi)

10歳より尺八を始め、人間国宝 故 初代 山本邦山に師事。東京芸術大学音楽学部邦楽科卒業。同大学大学院音楽研究科修了。2001年アルバム「UTA」でCDデビュー。以来、これまでに古典アルバム「杏」、15周年記念ベストアルバム「道」、ウィーンにてレコーディングを行ったシュトイデ弦楽四重奏団との共演アルバム「FESTA」他多数のCDアルバム、DVD、ブルーレイをリリース。並行して、坂本龍一、野村萬斎などアーティストとのコラボレートを積極的に行う。ソロ活動では、映画『武士の一分』(山田洋次監督、富田勲音楽)にゲスト・ミュージシャンとして音楽に参加、『スーパー歌舞伎Ⅱ』(四代目市川猿之助演出)、『ろくでなし啄木』(三谷幸喜演出)、『マクベス』(野村萬斎演出)、『ハムレット』(ジョン・クアード演出)などの舞台音楽を手掛ける。2015年には、15th anniversary concertをサントリーホールにて開催。山田和樹指揮、横浜シンフォニエッタとの共演を行う。現在、NHK Eテレ「にほんごであそぼ」にレギュラー出演中。本年6月よりマリンピストSINSKEとの全国ツアーが始まる。また、ピアノ、チェロ、尺八のユニットKOBUDO-古武道-が10周年を迎え、全国ツアー及びベストアルバムを発売。オフィシャルホームページ <http://www.dozan.jp/>

《ゲスト》 国府弘子(ピアニスト)

◆伶楽舎(雅楽) Reigakusha (Gagaku)

雅楽の合奏研究を目的に1985年に発足した雅楽演奏グループ。音楽監督・芝祐靖。現行の雅楽古典曲以外に、廃絶曲の復曲や正倉院楽器の復元演奏、現代作品の演奏にも積極的に取り組み、幅広い活動を展開している。国内各地の他、アメリカやヨーロッパの主要ホールに招聘されて演奏。古典曲や現代曲のCD等も多数録音。現代作品や古典雅楽様式の新作として、これまで湯浅譲二、池辺晋一郎、増本伎共子、猿谷紀郎、伊左治直、芝祐靖他に作品を委嘱、自主公演で初演。2002年2月中島健蔵音楽賞特別賞、CD『秋庭歌一具』(ソニー)で平成14年度芸術祭レコード部門優秀賞受賞。昨年11月の自主公演「伶楽舎第13回雅楽演奏会」が第16回(2016年度)佐治敬三賞を受賞。他に、解説入りの親しみやすいコンサートを企画し、雅楽への理解と普及に努め、子どもや小中学生のためのワークショップなども多く開催している。 <http://www.reigakusha.com> <https://www.facebook.com/reigakusha>

舞:中村かほる / 笙:東野珠実、三浦礼美、五月女愛 / 箏:中村仁美、田淵勝彦、鈴木絵理 / 龍笛:笹本武志、角田真美、野護元 / 三ノ鼓:宮丸直子 / 太鼓:中村華子 / 鉦鼓:田口和美

(50音順)

◆ピーター・バラカン/ブロードキャスター Peter Barakan

ロンドン大学日本語学科を卒業後、1974年に音楽出版社の著作権業務に就くため来日。現在フリーのブロードキャスターとして活動、「バラカン・ピート」(インターFM)、「ウィークエンド・サンシャイン」(NHK-FM)、「ライフスタイル・ミュージアム」(Tokyo FM)、「ジャパノロジー・プラス」(NHK BS1)などを担当。著書に、新刊『ロックの英詩を読む〜世界を変える歌』(集英社インターナショナル)、『ラジオのこちら側』(岩波新書)『わが青春のサウンドトラック』(光文社文庫)、『ピーター・バラカン音楽日記』(集英社インターナショナル)、『猿はマンキ、お金はマニ』(NHK出版)、『魂(ソウル)のゆくえ』(アルテスパブリッシング)、『200CD ブラック・ミュージック』(学研)、『ロックの英詞を読む』(集英社インターナショナル)、『ぼくが愛するロック名盤240』(講談社+a文庫)などがある。

◆田中隆文/「邦楽ジャーナル」代表取締役・編集長 Takafumi Tanaka

1987年月刊誌「邦楽ジャーナル」を創刊。
2001~2010年邦楽界最大規模の総合イベント「日本の音フェスティバル」企画制作(JASRAC主催)。2006~2010年NYにおける世界最大規模の芸術見本市「APAP」関連公演として「Hogaku:New Sounds of Japan」プロデュース、同時に講演(国際交流基金主催)。
2006年~邦楽アソシエーションを創設して邦楽器業界月刊紙「和楽器文化」発行。
2011年~野坂操壽・沢井一恵「第一ふたりのマエストロ」コンサート全国ツアー企画制作。